

ICTを活用してグローバル化に対応する 発信型の外国語力を身に付ける

～学校と家庭をICTでつなぐ複言語教育の充実～

キーワード ICT活用 グローバル化 外国語 発信型 電子黒板・タブレット

学校名 私立 カリタス小学校

所在地 〒214-0012
神奈川県川崎市多摩区中野島4-6-1

ホームページ
アドレス <http://caritas.or.jp/es/>

1. 研究の背景

川崎市登戸にある本校は、カナダ・ケベック州の修道院を母体とする幼稚園から高校までの一貫教育校で、英仏語の複言語教育を特色とし、世界標準の外国語力を持つ日本人の育成を目指している。パナソニック教育財団からは2010年度から3回、今年度で4回目の一般助成を受けて電子黒板やタブレットなどICTを活用した英仏語教育のあるべき姿を研究してきた。電子黒板（外国語室に3台、5・6年普通教室に6台のSmart Board）やタブレット（2012年秋購入40台のFujitsu windows7）、少人数クラス、複言語教育の明確な理念、統一性のある英仏語カリキュラム、充実したデジタル教材、多彩な助言者のおかげで、仏語教育は50年の歴史がある一方、英語教育は正式に始めて3年目だが、着実に児童の外国語力は伸びている。2008年度から購入を始めた電子黒板が今では校内に黒板付で12台設置され、外国語授業はもちろんのこと、算国社でデジタル教科書を使用するなど、徐々にではあるが校内のICT化も進んでいる。

2. 研究の目的

外国語教科書は全てデジタル化され、非常勤も含めて7名の外国語教員全員が電子黒板を日常的に授業で使用している。タブレット40台も、古く使い勝手が悪いものの、4～6年の英語授業では必ず音を聞いて自習する時間を設けている。しかし、授業中にタブレットをどの場面で、どう使うか、デジタルとアナログのバランス、児童の発言、さらには積極的な発表に結び付けるにはどうしたらよいか。また、教材が3OS対応となったが、家庭学習にどうつなげばいいのか。仏語も悩みは同じで、Delf（CEFRに準拠して仏政府が実施する試験）では発音やイントネーションの正確さだけでなく、事実を描写する力、考えを自分の言葉で発信する力も評価されるが、ICT教具をどう使用して児童の力を引き出すか明確な答えが出せずにいる。こうした悩みに対する答えを見つけるために、本助成では、（1）電子黒板とタブレットを使った英仏語授業研究（2）英語教材3OS版の家庭での使用（3）低学年フランス語教材のiTunes-Uでの公開を主な研究テーマとした。

3. 研究の経過

本研究は電子黒板とタブレットを使用した英仏語の授業研究を中心に据えた。英語教材の3OS版の普及と仏語教材のiTunes-Uでの公開は、ICTで家庭と教室を結ぶという点で画期的ではあるが、現時点で全児童

の外国語力増強に直接繋がらず、数値的評価もできないからである。

添付1【研究経過】(4～6年の英語教科書「English in Action1～4」ぼーぐなん社をEAと記す)

日にち	取り組み内容	授業のポイント
5月9日	① 英語授業研6年(EA3 L22 Gallyyer is taller.)	カタカナ英語を許さない 正しい英語音を聞かせる
5月12日	① ★校内英語授業研6年 助言者:久埜・小林 (EA3 L22 Gallyyer is taller.)	児童の日本語発言を受け止め、正しい英文で教師が返す
5月27日	① 東洋英和小学校 4年・6年英語授業参観 (同じ教科書と電子黒板、タブレットを使用)	丁寧に英語で説明 児童の発言を活用する テンポ良い授業とは?
6月4日	① 参観日1年英仏語授業	英仏語に抵抗なく慣れ親しみ、リズムを楽しむ1年生
6月6日	② 4～6年保護者向け英語教材30S版の説明会	音を多く聞くことの重要性 家庭学習の必要性
6月13日	評価 音声検定6年 第一回	
6月27日	① 英語授業研6年 他校より参観者5名 (EA3 L24 Do you have a mitt?)	聞き取りやすい発音 タブレットを使うときのルール
7月23日	② iTunes-U用低学年仏語模擬授業撮影	子どもらしい自然な動きと表情 音を身体全体で楽しむ
9月6日	① 英語授業研5年(EA2 L16 In the zoo)	語順に気づくような問のような文を繰り返し聞かせ、見せる
9月30日	① 英語授業研6年(EA3 L26 What are they doing?)	子どもが聞く気になるような授業展開 独自教材・ビデオ
10月28日	① 英語授業研6年(EA3 L28 I get up at 6:00.)	タブレットで自律学習 タイミングと教師の支援
11月4日	① 参観日4年仏語授業	電子黒板で文字認識が進む リズムカルに音を楽しむ
11月20日	評価 仏語検定5級 8年68名受験	聞く・読むの腕試し 文法ルールの基本を理解
11月26日	① ★全校公開英語授業研究会 助言者:久埜 (EA4 L31 Pinocchio-1)	参加36名 詳細は別添
12月15日	発表 5・6年英仏語スピーチ「おしゃべり横丁」	5年人物クイズ、6年自己紹介 タブレットで自主練
12月20日	② iTunes-Uで低学年仏語模擬授業30分動画公開	校内関係者だけでなく、国内、世界に発信
1月16日	① ★英仏語授業研究(3年仏語・6年英語) 訪問アドバイス先生(EA4 L32 Pinocchio-2)	全部分からなくてもいい みんなでやってみる 助け合って理解する 児童も教師も授業を楽しむ
1月26日	① 参観日3年英語	聞いて分かることを増やす 音を真似することを楽しむ
1月30日	評価 英検Jr.ゴールド 8年受験	聞く・読むの腕試し 長時間、集中して英語を聞き続ける
2月3日	評価 音声検定6年 第二回	
2月18日	発表 学習発表会・6年英仏語スピーチ 3年仏語劇	教科横断「総合」活動について英仏語スピーチ
3月12日	評価 Delit Prim A1 8年38名受験	辞書なしで書く、話すの腕試し

この一年間の取組みを列記し(添付1 研究経過)、3種の活動に分類した。後期には、児童による英仏語での発表を行い、保護者や教員に見ていただいた。また、外部試験の結果を外国語力の数値変化として得ることもできた。

4. 代表的な実践

9・10月に行った校外授業研では助言者の久埜先生と共に、English in Actionを教材として使う他校の先生方にも授業ビデオを見ていただき、電子黒板とタブレットの使い方については当然のこと、授業の組み立て、教材の扱い方、児童の発話を引き出すための教師の言葉の使い方、そのタイミングなど授業全般について助言を得た。それを踏まえて11月26日の全校公開授業研究会に臨んだ

(添付2 指導案)。

当日は26名の他校教員、大学関係者、出版社、学生の参観があった。授業後のグループ討論会では、本校教員10名を含め参観者全員が付箋紙に感想や意見、児童の様子、提案を書き、それを整理しながら活発な話し合いがなされた。

電子黒板とタブレット：テンポ良い授業展開。子どもが集中している。プロジェクターからの音が明瞭。一文ずつに音が付いている。文を見ながら、音が聞ける。抑揚の利いた英語で状況がイメージできる。タブレットを使い、気になるところを自主練習。一文、一語を繰り返し聞いて納得いくまで練習していた。

添付2. 英語公開授業指導案

学習のながれと児童の活動	教師の支援と留意点
<p>4. 本時のねらいと評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ○はっきりとした発音や大きな声で聞き手に伝わる英語が話せる。 ○文を言うときに語順や動詞の変化などに気づき、意識して使おうとする。 ○タブレットの音声を見て、文の prosody を真似して言える。 <p>5. 本時の活動案</p>	<p>日時：平成28年11月26日(土) 2校時。 対象：6年3組児童女子18名。</p> <p>(中略)</p>
<p><Warm-up></p> <ul style="list-style-type: none"> ○Greetings: check the months/date/year/day/weather. ○Song: Lovely Evening ○Q&A: What instruments can you play? ○Where do you want to go over winter vacation? ○Speech(自己紹介)&Question 2, 3人の発表、内容に関する質問を聴いている児童に教師が問う。 <p><Activity></p> <ul style="list-style-type: none"> ○Textbook p. 2.4 プロジェクターから流れる音を聞きながら読む。 Whatの質問をして内容を確認。 ○Who is he/she?子どもたちが良く知る人物を he/she で紹介する。 <p><Consolidation></p> <ul style="list-style-type: none"> ○Textbook p.2,3,4の Pinocchioの文をタブレットで各自練習する。 Op.1を全員で読む。 Now I want to go to the puppet show. I can go to school later を使い、自分の経験をも表現す。 	<p><Warm-up></p> <ul style="list-style-type: none"> ○単語だけでなく「It is-」と文で言うことを心がける。 ○口の形、声の大きさ、発音を意識して教う。/g/の音を出す。 ○What や Where の疑問文を理解し考えを伝える。 I can play... I want to go to... ○発表者「I」を使い相手に伝わるようはっきりとした声で発表する。 聞き手:発表者の英語を聞き、Whの質問の意味を的確に捉え問いに答える。三人称動詞の使い方(三人称単数)に注意する。 <p><Activity></p> <ul style="list-style-type: none"> ○教師は What does he like to do?など質問し、児童の発話を促す。 ○教師は生徒の発話を正しい文で言い返す。 <p><Consolidation></p> <ul style="list-style-type: none"> ○教科書に自己評価(文の横に○や△をつける)。 p.2,3,4を一人で読んでもらう。 ○Now, I want to go to ○○. I can go to ○○ later.の意味を理解し自分で使ってみる。



11.26 公開研での付箋紙振り返り

自由な発想を英語で表現:身近な人物(ドラえもんなど)を英語で説明。学習したことを応用して各種作文できる。児童の自由な発話を丁寧に拾い、英文にして返す。間違ってもとにかく言おうとする。英語が全部分からなくても聞いている(曖昧さに耐える力)。友だちの発表を一生懸命聞き、それに質問する。児童の発表で三人称のSが落ちていると、さりげなく直して教師が言い返す。発表が苦手な子も、英文を聞き読んで理解している。教師は児童に文で話させようとしている。感情の込められた英文を聞き、イメージをつかみ、イントネーションを真似する。

改良点: 学習した文法事項をはっきり児童が認識したか? 子どもの発言を文字化して残しては? 教師の英語がスラスラと流れ過ぎているが、語尾まではっきりと発音して聞かせるべきでは? 教師の生の音声をモデルとする場面も欲しい。授業のねらいとまとめの繋がりが見えない。

5. 研究の成果

電子黒板とタブレットを使うと、外国語授業の何が変わるのか? これは2010年から段階を経て研究してきたテーマだが、今年度は開始して3年目の英語授業に主眼を置き、そこから仏語授業、ひいては児童の外国語力全体の伸びを促す方法について研究を重ねた。利点として、

1. 抑揚の利いた英語らしい音声をたっぷりと聞き、児童が自分のペースで練習できる。
2. 単語・文・イラストに音が埋込まれ、日本語訳なしに、児童が音を聞いて直観的に理解できる。
3. 文字と音声を一致させ、ある程度のもまとまった文が読めるようになる。
4. 授業がテンポよく展開し、児童の集中力が持続する。
5. 児童の自由な発言を正しい文にしてその場で文字化し、保存し、共通テキストにできる。
6. 教師の自由裁量で新しい素材・教材を簡単にレッスンプランに挿入し、授業で使える。
7. 授業の経過・経緯を保存し、互いの授業を可視化し、授業力を高め合える。



5.12 校内英語授業研究会

この利点を生かすには、電子黒板と使い勝手の良い付属ソフト(本校の場合はSmart Notebook)、タブレットと質の良いデジタル教科書(English in Action)が不可欠との結論である。

成果を数値化するにあたり、英語では音声検定、英検 Jr.ゴールド、仏語では仏検5級、Delf Prim A1を使用したので、以下にまとめる。

音声検定は全6年を対象に6月と2月に教科書の中から「早口言葉」をいくつか選び、一人ずつ発音してもらい、①スピード ②カタカナ音 ③子音の強さ ④メロディー ⑤なめらかさ の5つの観点を数値化し、1年間の学習の伸びを見た。タブレットで毎時間自主的に練習したことが功を奏し、全体的な数値が伸びている。特に⑤なめらかさでは、繰り返し練習の成果で、つかえる生徒が少なくなっている。一方、③子音のめりはりが相変わらず弱いのは、児童がその重要性に気づいていないからだと思われる。今後、教師が授業中、口の動かし方をより強調して見せるなどして、子どもの修正能力を促したい。

添付 3. 英検 Jr.ゴールド結果比較



6年児童の英検 Jr. ゴールドの結果を5年次と比較すると（添付図3）、全体の平均点が76点から86点へと10点も伸びている。100点満点が増えたのは学外で英語学習をする児童が増えたことに起因するが、90点以上が50名（受験者88名）もいることは、校内の英語授業だけでも力がついていると理解できる。観点別評価では、昨年同様、特に文字認識力が高いと出ているが、これは教材のおかげと推察する。同じ高得点でも、文字認識力が優れているという

ことは、中高での英語学習にもつながる力をつけていると評価したい。

一方**仏検**は、本来大学生以上の大人を対象とした検定であり、滞在経験もない小学生が合格するだけでも大事である。だが、今年は満点合格者が1名いて、「文部大臣賞」を受賞した。合格者数も昨年度は50名、今年度は53名と、安定して力をつけている。幼稚園から仏語の音を聞いて育ち、6年で簡単に文法事項を整理・理解することで入門期に必要な力はつくると確信できた。

仏検で得た receptive (受け身的) な力を基に Delf では書き・話す productive (創造的発信力) な力をつけることを主眼に置いている。Delf 受験者は昨年も今年も50名若だが、特に Delf Prim A1 レベルでは文法や綴りの正確さよりも、仏語を使って表現する意欲を高く評価するので、受験者は「思いっきり書いて楽しかった。面接でもっと話していたかった」の感想を試験後に述べている。Delf Prim (小学生対象) は日本での実施が始まって7年目だが、幸い本校からは全員合格している。可否や点数ではなく、受験した児童が「中学でも英仏語をがんばる。もっとできるようになりたい」と言っていることに注目したい。覚えたことを評価する試験ではなく、書きたい、話したいことが表現できるかを評価する CEFR 方式が、児童の学習意欲を高めている。

6年の英仏語評価をまとめてみると、50名以上の児童が英仏語どちらにも興味関心があり、聞く・理解するの力をつけていることが分かる。英語での高得点者＝仏語高得点者ではなく、つまり頭の良い子が全てに強いわけではない。英語下位層にも、仏検合格者がいる。幼いころから様々な言語に触れることで、視野を広げ、可能性も広げていることが理解できる。

英語教科書の30S化は、教師としては音声を聞く機会を家庭にも簡単に提供できて画期的と当初思ったが、まだまだ保護者にその必要性が理解されず、デジタル教材購入者と学力の伸びに相関性が見いだせずにいる。一年経った現時点で対象の4～6年中、30S版購入者は3分の1に留まる。反転学習の一つの方法とも思ったが、保護者に資金的負担をかけるので（毎月300円程度）、強制的に購入させるには至らず、授業でも「続きは全員家で聞いて」とは言えずにいる。一方で、数は少ないが、家でデジタル版を聞く児童からは、「音が良く聞こえるようになった。真似するのが楽しい」の声も聞こえている。

iTunes-Uでの「低学年フランス語」教材の公開に関して、教員が教材を載せるには手続きやサイトの仕組みが煩雑で手間取ったが、試行錯誤の末、3～4分の模擬授業ビデオ11本を12月に公開した。1・2年生の自然な表情と仏語を身体全体で楽しむ姿に、見た方々からは「私もこんな風に学びたかった。児童が楽しみながら学んでいる様子がよくわかった」とのコメントを受取った。日本国内だけでなく、韓国・中国などからもアクセスがあり（校名が日本語表記なので）関心の高さを感じた。さらに、Apple からアクセスの詳細な記録が得られるので、製作者の励みになった。

公開した iTunes-U サイト



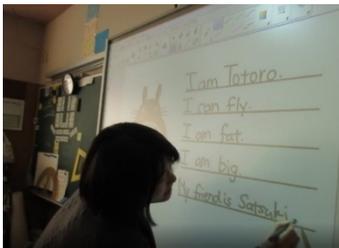
最後に、外国語での**発表**だが、12月の5.6年生による英仏語スピーチ大会「おしゃべり横丁」、2月学習発表会での6年生英仏語スピーチと3年生ミニシアター仏語劇で、それまでの学習成果を披露した。特に6年生のスピーチでは、通常のテンプレート型自己紹介ではなく、PPTを使って自分や家族の特技や趣味を発表したり、「総合」活動の成果を発表するなど、本当に伝えたいことを英仏語で発表できて、見た方々からは「小学生が自分のことを英仏語で語るとは驚いた。小学生がここまでできるとは！」との感想が聞かれた。

様々な発表に向けての練習の段階で、教員を補佐する形で電子黒板とタブレットが大活躍した。新たな**電子黒板の使用方法**として3年の仏語劇では、単語をイラストと結ぶ活動をしたり、電子黒板にセリフを映し出して練習を続けたところ、ローマ字を覚えてたの3年生が、音と文字をつなげて意味を理解し、文字を手立てにセリフを覚えて演じられるようになった。6年では、授業だけでなくDelf受験対策にも電子黒板が活躍した。児童の発想・発話をその場で教師が電子黒板上に記入したりタイプアウトして正しい文として見せる。それをテキストとして保存、印刷配布して授業の復習に使い、さらに自分でもう一文付け加えることを宿題にした。話すことから書くことへ繋ぐ有効な手立てとなった。人気アニメのキャラクターを紹介したり、4コマ漫画のストーリーを考えたりと多様な活動に使えた。また、**タブレットの新たな使用方法**として、各自のスピーチ原稿を教師が録音したものをタブレットに



電子黒板にセリフを映して練習する 3年

入れ、児童は音源を繰り返し聞いて練習した。スピーチの練習は一対一が原則で、少人数クラスでも教師の手が回らないのが実情だが、待っている間も自分で何度も音を聞いたので、英仏語での1分間のスピーチを完璧に覚えただけでなく、発音やイントネーションも目に見えて良くなった。将来的には、英語教科書と同じように、一文ごとに音声が付いたら、それを自動的に行うソフトがあれば、いっそう児童の練習がはかどるだろう。



発話を文字化して確認する

タブレットでスピーチ練習をする



タブレットでスピーチ練習をする

6. 今後の課題・展望

本助成のおかげで多様な試みを行い、多忙ではあったが、実りの多い一年となった。おかげで今後の課題も見えてきた。**ICT 機器**に関して。タブレットは耐用年数を超えて修理不能のものが増えている。2017年度は校内ランの改善を優先し、タブレットの買替が一年先送りとなったため、4~6年週2回の英語授業で毎回タブレットを使うことが難しくなった。ICT化は時代の流れだが、買って終わり、設置して完了ではなく、学校として継続が課題と知った。外国語科だけでなく、ICT推進を学校全体として考え行う必要も痛感した。**30S 版の家庭での使用**に関しては、英語を聞く時間を増やしたいので、より多くの家庭に購入を呼び掛けた

い。中学では全生徒にネット教材使用を義務付けているので、小学校でも強制的購入を検討するつもりである。iTunes-Uの使用方法だが、世界的に有名な教育サイトであり、仏語コースだけで終わるのは惜しい。教材のコピーライトがからんで難しいが、家庭と学校を結び、世界に発信する場として本校独自の他教科紹介ビデオや教材を公開する方法を探りたい。まずは、オリジナル音楽教材の公開を考えている。**電子黒板とタブレットを使った英仏語授業研究**では、この一年間、助言者だけでなく、他校の英語専門家、大学関係者から様々なアドバイスを頂戴した。私学小連の関東地区の先生方から特に英語授業について質問を受けることも増えた。英語教育が手探り状態である今、こうした仲間の輪は大事にしたい。校内授業研究を継続する一方、同じ教材を使う私立小英語教諭との繋がりをより堅固にし、意見・情報交換の場を積極的に持ちたい。

7. おわりに

本助成のおかげで他校の外国語教員、大学の専門家、出版社、業界担当者から多角的なご意見を頂戴できたことは、英語科を立ち上げて3年目の本校にとっては大きな助けとなった。参観者が増え、人の輪が広がったことも収穫である。改めて電子黒板とタブレットに限られた授業時間で児童の能力を伸ばすには不可欠だとも確信できた。英仏語の複言語教育が日本人児童にとって不可能ではないと実証されたことも嬉しい。

言葉を扱うことは外国語授業だけではなく、小学校全ての教科、活動、生活に関わることなので、今後は学校全体として、発言・発信力を高めるために何が必要か考えたい。児童が感じ、考え、言いたいことを相手に分かりやすく日英仏語で発信できるようになることを強く願う。

最後に、助言者である久埜百合先生と小野寺健吾氏、チームカリタスで共に動いてくれた外国語科の教員全員と、常に我々の研究を理解し支援してくれた学校指導部にも感謝したい。「やればできる」ことを示してくれた児童たちにも感謝したい。

8. 参考文献

- ・「子どもと共に歩む英語教育」久埜百合、粕谷恭子、岩橋加代子著 ぽーぐなん社 2008年
- ・「語研ブックレット3 小学校英語」第10研究グループ (財)語学教育研究所 2010年
- ・「語研ブックレット5 小学校英語2」同上 2012年
- ・「本物の英語力」鳥飼久美子 講談社現代新書 2016年
- ・「話すための英語力」鳥飼久美子 講談社現代新書 2017年